



# 博物館だより

Nagano City Museum

第112号



乾燥した古文書（水損した区有文書のうら）

## 令和元年台風 19 号に伴う被災文化財の保全

令和元年（2019）台風 19 号に伴い、長野市内各所で多くの被害が発生しました。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

また、皆様からいただきましたご支援に心より御礼申し上げます。

### 長野市内の文化財の被害

この度の災害では、各方面に被害が及び、長野市内にある様々な文化財も被害を受けてしまいました。浸水被害が大きかった長沼、篠ノ井、松代、若穂、豊野には、多くの文化財が存在していました。文化財は博物館のような公共施設が保管しているだけでなく、個人や地区、寺院などの民間も多く所有しています。そのような文化財（寺院や個人所有の古美術品や、地域で持っている古文書など）が水損してしまいました。穂保（長沼）の堤防決壊箇所の近くでは、濁流が押し寄せたとみられ、流されてしまったものがありました。その中で泥の中から掘り出し、搬出した資料もありました。

水につかってしまったものは、カビの発生などによって腐食してしまうため、水分を取るなどし、安定化の処置をする必要があります。当館では、ボランティアのみなさんとともに乾燥作業などを行っています。

こうした被災文化財を救出する作業は、「文化財レスキュー」と呼ばれ、阪神淡路大震災以降、災害の度に全国各地で行われてきました。今回は、全国各地でこれまで文化財レスキューを行い、実績やノウハウを積み重ねて

きた方々に駆けつけていただき、支援をいただきました。長野市立博物館では、これまで地震に伴う文化財レスキューは経験してきましたが、水害への対応は初めてだったため、水害を経験した方々から方法を教えていただき、支援物資をいただいたことで、活動を行うことができました。

ここでは、令和元年 12 月現在での活動についてご報告したいと思います。

### 安定化のための作業

災害時の文化財レスキューにおいては、まず水や泥につかってしまった文化財（以下は「資料」とする。）を搬出します。今回は、泥や水につかってしまい、現地で保管場所が確保できなくなった資料や、盗難の危険性が高くなったものを、一時預かりという形で博物館に搬入してきました。しかし、それだけでは終わりません。その後の作業に時間がかかります。水損してしまったものを安定化させるための処理的作業を行い、調査をして目録などを作成し、資料がよい状態で保管されるようになるまで手配しなければなりません。現在は特に、安定化のための作業を博物館で行っています。

今回の活動についてお問い合わせいただく際に、「文化財を修復しているのですか。」と聞かれることが多くありましたが、博物館では「修理」や「修復」をしているわけではありません。水にぬれるなどしたことにより非常に不安定な状態になってしまった資料を、できる限りよい状態で保つための応急的な作業をしています。資料の保全のために安定化



写真1 古文書をはがす様子

を進めているのです。

## 現在の作業

基本的には、どの資料も乾燥をさせています。乾燥させる際には、熱風や直射日光にはあてずに、風通しのよい部屋の中でゆっくりと乾燥させます。

古文書は、一枚ずつはがし、乾燥させます（写真1）。水損した古文書は固まりになってしまっていることが多いので、そのまま乾かすと、乾燥した後にくっつき、読めなくなってしまいます。それを防ぐため、竹製のへらなどを使って慎重にはがし、一枚物の紙はできるだけ広げて乾かします。冊子の場合はキッチンペーパーを挟み込み、立て

て、できるだけ風が通るようにして乾かします。キッチンペーパーは、資料と水分量が同じになってきたら取り替えます。紙は広げた方が早く乾くため、可能なかぎりバラバラにしたいのですが、バラバラにしすぎて古文書の大切なまとまりがわからなくなってしまうと、史料としての意味をなさなくなってしまうため、一枚ずつはがしながらも、文書のまとまりを分断してしまわないよう注意が必要です。

水分を多く含み、押すと水が出てくるような状態のものは、乾燥の前に圧縮して水を絞り出します。新聞紙で包み、布団圧縮袋で圧縮します（写真2）。これは、スクウェルチ法という方法で、この方法を導入してから、ひどく水損した古文書などの処理がスムーズに進むようになりました。

汚泥により水損した古文書は、本当に綺麗な状態にするためには水洗が必要な場合が大半ですが、今回は水洗せずに乾燥をしています。水洗するのは、あまりにも多くの泥が付着し、古文書を開くことができないようなも



写真2 古文書を圧縮する様子

のだけにしていきます。これは、処置しなければならぬ古文書が大量にあり、全てを完璧に水洗しようとする、処置しきれなくなる可能性があるため、乾燥させてカビなどが生えないようにし、古文書の全体像を把握することを優先した方がよいとの判断です。

しかし、博物館に搬入してきた時点で既にカビが発生していたものも多くありました。そのようなものは、乾燥作業の際に消毒用エタノール（エタノールを水でうすめたもの）でカビをふき取りました。

量が膨大で処置が追いつかない場合は、冷凍することで時間を稼いでいます。冷凍すると、カビの繁殖などによる腐食を食い止めることができます。今回は状態の悪い古文書が非常に多く集まったため、各所から冷凍庫を寄贈、貸出していただきました。現在は3台の冷凍庫に古文書が一杯に入っています（写真3）。それでも入りきらない分は、気温が上がらない場所で保管をし、順次乾燥作業をしています。

今回は、地域に保管されていた現代の文書も救出されました。これも、基本的に古文書と同様に対処しています。

掛軸や額に入った絵画なども広げて乾燥させます。将来的に残すものを検討し、本紙（絵や書が書かれている部分）の切り取りなどを行い、最終的には仕立て直しをすることになるでしょう。しかし、これも数が膨大であり、個々の資料の状況は千差万別です。掛軸などを仕立て直すには、専門的な技術を持った人による作業が必要となります。そのため、現在は、できるだけカビがこれ以上増えないような環境を整えて写真や調書をとっています。



写真3 冷凍庫に古文書を入れている様子

## 今後について

今回の災害では、古文書や絵画以外にも、様々なタイプの文化財が被災し、搬出されました。それらを、それぞれの特性にあわせて対処していく必要があります。量が膨大であるため、数年単位での長期的な活動が予想されます。また、この文化財レスキューに伴う作業のため、博物館内では、教室（休憩室）など、一部の部屋がお客様に御利用いただけない状況が続いています。これまでご来館いただきました皆様にも、ご不便をおかけすることがありましたが、皆様のご理解のお陰を持ちまして、文化財の救出を進めることができいております。今後とも、ご理解ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

## 博物館の藁製品

12月14日から4月5日まで、博物館では「わらの手仕事―ハレのかたちと暮らしの道具―」を開催しています。この展示では、博物館で収蔵している藁製品を展示しています。かつての農家で藁仕事を行っていた時期にあわせて企画した展示です。ここでは、一年間の仕事と行事を追いながら、生活の中に見える藁を紹介したいと思います。ここでご紹介するものは、全て博物館の収蔵品です。

### 農家の一年と藁仕事

一年間の中で、農家の人々は色々な仕事をし、様々な作物を作ってきました。昭和時代初期のある農家で、一年間にした主な仕事をみると、様々なことを行っていたことがわかります。家族みんなで、稲作、麦作、養蚕などを行っていましたが、祖父は一年中藁仕事を行っていました。祖父は、縄などを作り、売っていたようです。稲作が終わり、春に山仕事（山で薪などを採る仕事）を始めるまでは、祖父だけでなく、父親や長男も藁仕事をしていました。農作業ができない冬は、藁仕事のシーズンでもあったのです。

それでは、冬から順番に藁を使う行事を追ってみましょう。当館の収蔵品からご紹介できる行事をみてみたいと思います。

### 正月

注連縄、ゴボウジメなど、正月には藁で作られた様々な飾り物が飾られます（写真1 注連縄（ヨコジメ））（写真2 大黒ジメ）。長野市には、細いゴボウジメに松と紙垂をつけて、玄関に2つ飾ったものを門松とする家が多くあり、正月飾りの定番といえるでしょう。しかし、門松や正月飾りの飾り方は同じ長野市でも地域や家ごとに違い、多種多様なものが見られます。



写真2 大黒ジメ



写真1 注連縄（ヨコジメ）

## 小正月

小正月（1月15日頃）には、正月に飾った注連縄などを下ろして使う行事や、正月飾りを焚き上げる行事が行われます。

長野市内では、どんど焼き（どんどん焼き）が人々にとって最もなじみある小正月行事ではないでしょうか。1月15日（近年はその前後の休日）頃に、正月に使ったものなどを組み上げてやぐらを立て、燃やします。また、大岡地区の芦ノ尻では、道祖神碑に注連縄などを飾りつけ、道祖神の顔を作ります。

他にも、数は多くはありませんが、小正月に作るツクリモノに藁が使われることがあります（写真3 米俵（ツクリモノ））。



写真3 米俵（ツクリモノ）



写真4 藁馬 桐原牧神社

## 藁馬づくり・コトヨウカ

藁で馬を作る行事が、冬から春にみられます。

3月8日には、長野市桐原の桐原牧神社で藁馬（藁駒）が作られます（写真4 藁馬 桐原牧神社）。これは、この場所がかつて良馬の産地だったためとされます。

また、2月8日はコトヨウカと呼ばれ、長野県内、特に東信地方ではこの日に道祖神祭りを行うところが多く、藁馬を作って道祖神に供えます。例えば、上田市真田町戸沢では、藁馬を作って供え物（ネジ）を取り付け、道祖神碑まで曳いて歩き、お供えをします。ある地区では、道祖神祭りで藁馬を曳いて回った後に、屋根に投げ上げる風習があるようです。

北信地域には、そのような祭りはあまり見られませんが、中野市三ツ和小沼では、東信地方の道祖神祭りと類似した行事が行われています。



写真5 セイゾボウ

## 人形送り行事

### セイゾボウ・デイドボウ

長野市には、春の彼岸の頃に藁を使って人形を作り、それを集落の境に立てる、あるいは集落の外に捨てる行事（人形送り）を行う地域があります。特に大岡地区や信更地区でみられ、地域ではセイゾボウ、デイドボウなどと呼ばれています（写真5 セイゾボウ）（写真6 デイドボウ）。集落の子どもの数だけ人形を作ります。このような行事は、隣接する生坂村や安曇野市明科町などでもみられ、犀川流域にみられる行事のようです。

藁の人形は毎年作られ、古いものと取り換えられます。また、藁の人形を捨てる場合は、人形に災厄を託して捨て去るという意味合いがあるため、藁のように毎年手に入り、捨て去ることができるものが使われていると考えることができます。

### 護摩祭りのゾウリ

長野市大岡の市後沢では、かつて護摩祭りが行われていました。ここの護摩祭りは毎年4月3日に行われ、大きなゾウリをつくっ



写真6 デイドボウ

ていました。これを集落の出入口5カ所（後に1カ所）に祀ることで、市後沢にはこのゾウリを履く大男が住んでいることを示し、集落内に厄病や流行病等が入ってこないように願っていました。現在は、市後沢の護摩祭りは行われていません。当館には、この祭りで作られるゾウリがありますが（写真7 護摩祭りのゾウリ）、これは平成6（1994）年に作られたものです。

### 鹿追い神事

大河内池大神社（長野県下伊那郡天龍村）の春祭りとして、旧暦の3月3日（現在は4月中旬）に鹿追神事が行われます。害獣や天災を退けるための神事です。この神事のために雄雌一頭ずつの鹿が作られます。頭・胴体は藁、角と足はもみじの枝、耳・舌は杉の板



写真7 護摩祭りのゾウリ

が使われます。胴体の中には草餅・白餅・小豆御飯が入ります。神事の最後に勢子役が追い出し、禰宜によって射られた後、この餅などを競って採るのが慣例です。また、参拝者には小さい鍬のツクリモノが配られます。

## 十日夜

### トーカンヤのワラデッポー

旧暦、もしくは月遅れの10月10日の頃はトーカンヤ（十日夜）と呼ばれていました。この日は農作業の終わり、大根の年取りともいわれ、案山子上げをし、餅やおやきなどの丸いものを作って供えていました。そして、こどもたちが「トーカンヤノ ワ(マ)ラデッポー ユウメシクッタラ タタキダセ」などと大声で叫びながら、ワラデッポー（藁鉄砲）で地面をたたいて村中を回り、モグラなどを追い払いました。長野市内でもかつては行われていたようですが、現在はワラデッポーをやっているという話をきくことはできません。当館に収蔵されているワラデッポーは、北相木村宮ノ平で作られました（写真8 ワラデッポー）。

## 人生儀礼

農家では、年中行事だけでなく、人生儀礼においても藁で作ったものが使われていました。



写真8 ワラデッポー

長野市中条の旧中条歴史民俗資料館には、婚礼の場で使うために作られた藁製のサンシキ（三式）が残っていました。サンシキは、婚礼などの祝い事の場で並べる3種類の飾りで、鯛や昆布、スルメ等が一般的です。中条ではそれらを藁で模した飾りが作られていました。中条のこのサンシキは、昭和30年頃まで作られていたようです。

博物館の収蔵品からは、かつて農家で行われた行事で、藁が様々な形で登場していたことがわかります。（樋口明里）

## 博物館だより 第112号

発行日2019年12月27日

### 長野市立博物館

〒381-2212 長野市小島田町1414  
TEL:026(284)9011  
<http://www.city.nagano.jp/museum>

### 戸隠地質化石博物館

〒381-4104 長野市戸隠栃原3400  
TEL:026(252)2228

### 鬼無里ふるさと資料館

〒381-4301 長野市鬼無里1659  
TEL:026(256)3270

### 信州新町美術館・有島生馬記念館・信州新町化石博物館

〒381-2404 長野市信州新町上条88-3  
TEL:026(262)3500

### ミュゼ蔵

〒381-2405 長野市信州新町37-1  
TEL:026(262)2500